

演題名：食肉の生食に関するリスクコミュニケーション

発表者氏名：杉内正樹

発表者所属：滋賀県食肉衛生検査所

1 はじめに

滋賀県では「滋賀県食の安全・安心推進計画」において、県民・事業者関係者・行政の三者によるリスクコミュニケーションの推進に努めることとしている。また、近年食鳥肉の生食によるカンピロバクター食中毒が多発しており、その予防対策が必要であり、その手法としてリスクコミュニケーションが注目されている。そこで県内の全ての保健所で開催している「食の安全・安心に関する意見交換会」において、当所職員が講師として、食鳥肉を原因としている食中毒を中心に話題提供し、若者を中心とした受講者に食鳥肉の生食のリスクについて啓発する機会を得ることができたので、その概要を報告する。

2 材料および方法

① 参加者：消費者、事業関係者、行政（保健所および食肉衛生検査所）

② 実施方法：食肉、食鳥肉を生食することによるリスクについて話題提供を行うとともに、グループに分かれ行われた、消費者、事業関係者、行政による意見交換会（リスクコミュニケーション）に参加した。なお、参加者の理解度を把握するため保健所が最後にアンケート調査を行った。

3 結果

開催日時	場所	保健所	参加者
H27. 9. 2	立命館大学	草津	学生 10 人, 事業者 11 人, 行政 7 人
H27. 9. 30	彦根保健所	彦根	学生 15 人, 事業者 7 人, 行政 10 人
H27. 10. 14	滋賀文教短期大学	長浜	学生 5 人, 事業者 4 人, 行政 7 人
H27. 11. 11	農業大学校	東近江	学生 21 人, 事業者 4 人, 行政 5 人
H27. 11. 19	安曇川公民館	高島	幼稚園保護者 8 人職員 2 人, 行政 3 人
H28. 1. 19	甲南高等学校	甲賀	生徒 18 人職員 3 人, 事業者 8 人, 行政 6 人

4 考察

意見交換会は人数的には小規模であったが、消費者、事業者、行政でリスクコミュニケーションの出来る貴重な機会であった。話題提供の内容は、平成 27 年度に豚肉等の生食が禁止されたことや、食鳥肉によるカンピロバクター食中毒が全国的にも、滋賀県内でも多発していることから、今年度は食鳥肉の生食の危険性を啓発することを中心とした。食鳥肉による食中毒の多い若者（大学生）や事業者と情報共有ができ、意見交換をしたことは非常に有意義であった。また、参加者の多くから食肉の生食の危険性について理解が深まったとの意見があった。今後も食肉による食中毒の防止のため、保健所と連携して食肉の安全性に関するリスクコミュニケーションを推進し、食肉に対する正しい知識の情報発信に努めたい。